

夢を叶える言葉の力



イタリア ミラノインターナショナルスクール 高等部 2年

金子 邑

第5回日本語大賞 高校生の部 優秀賞 受賞作品

夢を叶える言葉の力

イタリア ミラノインターナショナルスクール 高等部二年

金子 邑（かねこ・ともえ）

はつきりと目的を口に出すことで、自分のやりたい事、やらなければならぬ事を理解することが出来る。医者になりたい、英語で良い成績を取りたい、現地の人と仲良くなりしたい…努力をするには必ず何か理由が必要なのだ。「ティーンズ・ドリームプレゼンツ」という日本の企画をご存知だろうか？ 十代の少女が自分の夢を大勢の人間の前で発表するというもので、十年以上前から行われていた。当時中学生だった第一回目の参加者で、愛犬の死を乗り越えて獣医になりたい、と語った下村さくらさんは、努力を重ねて本当に獣医になった。夢は見るものではなく叶えるものであるというのが良く分かる体験談だ。

夢というのは不思議なもので、漠然としている間は手が届かない。ただなんとなく心に思いを秘めている内は夢が夢のまままで終わってしまうのだ。そこで、自分の夢を明確に表現してみる。口にすることで、今何をすべきか、今何をしなければならぬかがはつきりしてくる。

失敗から目標を見出しそれに向かって明確に行動することも、同じような効果がある。自分のミスと向き合い、何をすべきかを見ずえる事で前に進むことが出来る。

いくつか私の体験談を紹介しよう。

一つは私が小学校四年生の時の話である。当時私は勉強、特に漢字が嫌いでも行われる漢字の小テストは毎回惨憺たる結果に終わっていた。ある日、学校で学期のまとめとして漢字のテストが行われた。漢字が嫌いだった私はろくに勉強もせずテストを受け、結果は過去最悪の十四点だった。この点数にショックを受けた私はその時初めて「漢字を勉強する、次のテストで誰よりも良い点数を取る」とはつきり自分の願いを口に出した。漢字そのものが苦手だった私はそれから漢字を必死に勉強した。テストで出た漢字だけでなく、小学校二年生の基礎から徹底的にやりなおしたのだ。その結果、再度行われたテストの点数は九十八点。ケアレスミスで一問落とした以外は完璧に答えることが出来た。それだけではなく、漢字を勉強することによってその文字の面白さに触れ、興味を持てた。さらに読める字が増えたので沢山の良書に巡り会う機会を持つことが出来た。

そしてもう一つの体験談は中学二年生の英語の模試の時のことである。とある進学校の模試を受けた私は、その問題のレベルの高さに手も足も出さず十三点というスコアを叩き出した。点数もさることながら、衝撃的だったのは受験者の中で出された順位だった。なんと受験者千三十一人中千三十一位だったのだ。親に慰められながらも私は、小学四年生の漢字テストが返って来た時のように「英語のレベルを上げたい、このままじゃ嫌だ」と思いを口に出した。単語を繰り返し書き取り、何度もつまずきながらも、現在の英語に囲まれる環境に身を置く私がい

る。苦しい私の経験から来た進歩である。全ての言葉には意味があり力がある。万葉集に記されている「言霊」という語

の通り、言葉には不思議な力が宿っている。感謝の言葉が人を優しい気持ちにさせ、嫌悪を含んだ言葉が心を傷つけるのもきっとこの力のためだろう。自分の願いが例え叶いそうになくとも、それを口に出して言葉にすることで実現に近づけることが出来るのだ。

インターナショナルスクールに通って私は日本人の多くが自分の意見を内に秘め、表に出そうとしないことに気がついた。恥ずかしい、という感覚が強い日本人は内に引っ込もうとする心理が働く。こうなると、夢も願いも言葉と共に心の内に隠れて消えてしまう。言葉は言った者勝ちなのだ。宣言することによって自らの意識を変えることが出来る。考えや意見を表に出し表現することで自分自身を見つめなおし、他者の意見をさらに取り入れることが出来るようになる。何か目標を作った時は、声に出したり書き出したりすることが重要なのだ。夢や願いは、言葉にするからこそ実現しうるのだ。